



人権教育の教員研修で開発した教材を実施

公害教育のESD化 ～大気汚染公害を題材として～

次年度教材を
実施する協力者候補

15人

開発した参加型教材を
活用した研修の実施

14回

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課題

これまでの公害教育は被害地域の問題として展開されることが多く、また被害状況など起きた事実を「正しく」伝える知識偏重型の教育で、ESDとはほど遠く広がり欠ける。

活動内容

西淀川公害という社会課題に直面した市民が解決のためにどう行動したかに注目し、市民力を育成することをねらいとしたシミュレーション教材の開発に取り組んだ。公害の被害を構造的に理解できるよう五つの異なる立場から話し合う。学習者は、社会課題に直面した際どんな困難が起きるかを追体験し、市民としてどう行動するかを考える。開発教育・人権教育関係者を中心に関心を集め、公害の経験を取り上げたESDの可能性を示した。



公害のスティックホルダーから
ヒアリング分析

今後の課題

- 市民力育成というねらいを果たし得るプログラムの完成。
- 公害を取り上げたESDプログラムを普及し、実践者を増やす。他の公害地域に働きかける。
- 福島原発事故後の今、公害の経験から学ぶESDの重要性を発信する。

成果と工夫した ポイント



成果

開発した教材を使った学生・教員から約200件反響が寄せられた。大阪市内小学校の公害の出前授業が前年度7校から11校に増加。新たに新任教員研修の依頼を受ける。新聞や他団体の媒体での教材紹介記事掲載3件。

工夫

公害を題材に取り上げながら、子どものエンパワメント・市民力育成をねらいとした教材開発に取り組んだ。